

## 第5章 国内のケミカルリサイクルの課題と今後の対応

### 5 - 1. ケミカルリサイクルの課題

効率的、経済的なケミカルリサイクル手法により、製品製造に必要な原料物質を確保する事が出来、ケミカルリサイクルによる廃プラスチックの処理量が増えつつあるが、更に処理量を増大させていくためには、以下の課題への取り組みが必要とされる。

- (1) 廃プラスチックの安定確保(廃プラスチック回収ネットワークの構築)
- (2) プラスチック添加物(塩素、臭素、フッ素等のハロゲン化物)の処理 --- 主要な技術課題
- (3) 設備投資額が大きく、サーマルリサイクルよりもコスト的に不利
- (4) 大型設備は、鉄鋼業や石化コンビナートに隣接して建設されている場合が多く、局地的な場所に限られ、廃プラスチックの輸送コストが高くなる懸念がある。

### 5 - 2. ケミカルリサイクルの今後の対応

エネルギー回収と異なって、ケミカルリサイクルは物から物への回収であり、完全循環型に立脚した手法であり、廃プラスチックのケミカルリサイクルによる製品原料を安定的に確保する観点からも、ケミカルリサイクルを活用する事が期待される。このためにも、プロセス設備面の技術開発、廃プラスチックの効率的な分別技術、収集法の見直しを進め、経済性の向上を図る必要がある。